

インターンシッププログラム（案）構築について（概要）

1. 概要

1.1 目的

(1)目的

原子力人材の育成・確保に向けた「とうかい版原子力人材育成・確保インターンシッププログラム」の構築に資するため、原子力関連産業への興味・関心を深め、就職意向を高めてもらう必要がある。インターンシップを通して事業内容を知り、体験し、肌で感じながら、原子力に対する理解を深めてもらうことが重要であることから、別途実施する就労意識調査結果やインターンシップなどを十分に踏まえ、実践的かつ効果的な学生向けのインターンシッププログラム（案）の構築に取り組んだものである。

1.2 事業実施概要

(1)実施内容

本事業における実施内容は以下のとおりである。

1)平成 28 年度実施インターンシップの調査

インターンシップ、人材の確保及び育成のための取り組みについて調査を行った。また、合わせて業務開始期間以前の実施分も調査に含めた。

①原子力人材育成・確保協議会が実施するインターンシップ

（高校生対象及び高等専門学校生・大学生対象の計 2 回）

②東北大学が実施し、原子力人材育成・確保協議会が協賛する「大洗原子力夏の大学」

及び「高等専門学校学生原子力インターンシップ」

③その他、本事業を実施するために必要な事業

2)原子力に対する意識調査の検討

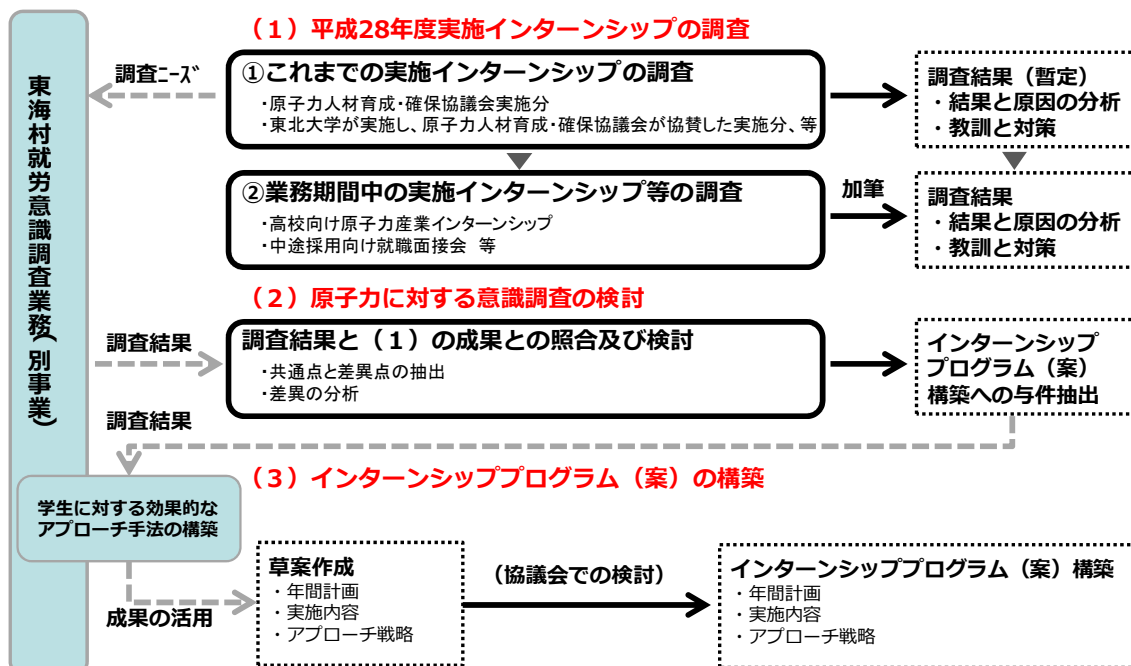
別途提示を受けた原子力に関する学生の意識調査結果について、原子力に対する意識、原子力関連事業に対する就労意識、東海村に対する意識、その他本事業に必要と思われる項目について検討を行った。

3)インターンシッププログラム（案）の構築

上記の 1)、2)の調査・検討を踏まえ、平成 29 年度以降に実施するインターンシップについて、実施対象毎に実施時期や実施内容のあり方を考え、実践的かつ効果的なプログラムの提言を纏めた。

なお、実施にあたっては本事業と並行して実施されている就労意識調査業務と連携しながら進めた。

(2)事業フロー



インターンシッププログラム(案)の構築については、協議会での検討は総会以降になることなど、一部変更点あり。

2. 平成 28 年度実施インターンシップの調査・検討

2.1 調査概要

(1)調査したイベント

参加した学生・生徒、教員、会員企業の会場での意見や感想等を中心に調査した。すでに実施済みのイベントについては、参加した協議会員の意見や感想等を中心に調査した。

	協議会イベント	参加イベント
平成 28 年 3 月		○茨城高専「合同企業インターンシップ・就職説明会」 ○勝田工業高校原子力業界研究セミナー
平成 28 年 5 月		○茨城大学工学部インターンシップマッチングフェア
7 月		○大好きいばらきインターンシップマッチングフェア（茨城大学工学部）
8 月	○大学・高専対象原子力産業インターンシップ	○東北大学大洗原子力夏の学校懇談会 ○東北大学高専インターンシップ懇談会
11 月	○就職説明会（中途採用）	
12 月	○高校向け原子力産業インターンシップ	○茨城高専ジョブセミナー2016 ○原子力産業セミナー2018 プレイベント（東京）
平成 29 年 3 月	○東京都市大学合同企業説明会 ○勝田工業高校原子力セミナー	○原子力産業セミナー2018（東京） ○大好きいばらき合同企業説明会（東京）

【考察】*詳細は本報告書にて

マッチングの機会創出に悩む会員企業からは、協議会だからこそ実現できたとの評価がある。一方、取り組みの初年度ということもあり、幾つかの課題も見られた。

- ①採用ターゲットを捉えきれていない。
- ②会員企業と学校との関係が希薄。教員、保護者へのアプローチが不足。
- ③学校側のニーズ、行事予定と合致しないことが散見された。
- ④企業の対応者に若手社員が少ない。
- ⑤原子力の有用性、原子力関連企業であることの訴求が強く、学生の求めるものとズレ。
- ⑥自社の職場を見せる意識が弱い。
- ⑦学生に向けた情報発信が弱い。
- ⑧その後の人材確保に活かされたかどうか。

3. 原子力に対する意識調査の検討

3.1 原子力に対する意識調査（別途実施の「就労意識調査」）の検討

(1) 検討概要

東海村が別途実施する「就労意識調査」の報告について、これまでの協議会人材マッチングイベント等の実施評価を踏まえ、検討を行い、効果的な取組の検討を行った。

3.2 就労意識調査で推奨するアプローチ手法に対する検討

(1) 基礎的なコンテンツ（Web、パンフレット）の用意

各社のホームページやパンフレットには、それぞれの経営戦略、制作コンセプトがあるが、そこに協議会活動で得られた知見を反映していくことは可能であろう。協議会のホームページやパンフレットについては、比較的柔軟に制作できることから、まずはここからの取り組みを開始したい。

(2) 説明会・インターンシップ

集合形式で説明や体験を行うことで、企業と仕事について、より深く知ってもらう必要があるが、これを実現していくには幾つか課題がある。

高校においては、企業の個別説明が可能な期間に限られる上、学校単位でも取り組みとなると授業時間との調整が必要となる。夏休みなどを利用したインターンシップで会員企業の仕事の現場に触れる機会を設けるなどで高校生の企業理解を深めたい。

高専、大学では他の業界も集う合同企業説明会が開催される。その参加申込機会を逃さぬようアンテナを広げ、参加できた際には、上記のメッセージを発信できる準備を整えておきたい。

(3) 学校・教員の活用

学校訪問や情報提供など、継続的な関係を構築する。高校・高専では担任や進路指導教員、大学では研究室や進路指導室を訪問する必要がある。特に高校生の場合、試験を受ける会社を本人、保護者、学校の3者で2社程度の絞り込むことが多い。この段階で篩に残らなければ入社試験を受けてくれないこととなる。学校側の理解は非常に重要である。そのためには、インターンシップへの教員の参加、教員向けの合同企業研究等を推進していきたい。

会員企業単独での学校訪問は、それまでの関係が乏しいと困難な場合がある。協議会としての訪問であれば学校側とのアポイントを取りやすい面もある。協議会のコーディネーターによる会員企業の紹介には限界があるのも現実。協議会コーディネーターとともに会員企業が同行するスタイルも検討したい。

(4) OB・OGの活用

説明会やインターンシップ等のイベント等の場に登場させるほか、日常的な就活生との接触を促す。合同企業説明会やインターンシップに参加した学生からは、年齢の近い若い社員の声を聴きたいという要望が強く、試行したイベントでは好評であった。ただ、合同企業説明会では、会員企業の多くは年齢の高い管理職で臨むことが多い。参加負担は増すが、求職の学生との対応経験は若手社員の貴重な人材育成の場でもあり、これを活用したい。

(5) 社会・保護者・家族の理解を得る

家族や社会を味方にする。就活生だけでなく、家族向け、子供向けの見学会や説明会などを実施する。

見学を受け入れるキャパシティや環境にない会社が多いが、地域のイベントに企業単位、協議会単位で参加することで、地域での認知度を上げ、地域に密着した企業イメージを構築していきたい。

(6) 協議会ブランドの利用

単独ではアポイントがとれない相手への接触や、参加できないイベントなどにおいて、協議会のブランドを活用していく。

これまでも、企業単独ではなく協議会であることで、相手とのアポイントやイベント参加のコンタクトがしやすくなった面がある。協議会と会員企業の同行訪問などで、学校側との関係を築き、これを強化していきたい。

4. インターンシッププログラム（案）の構築

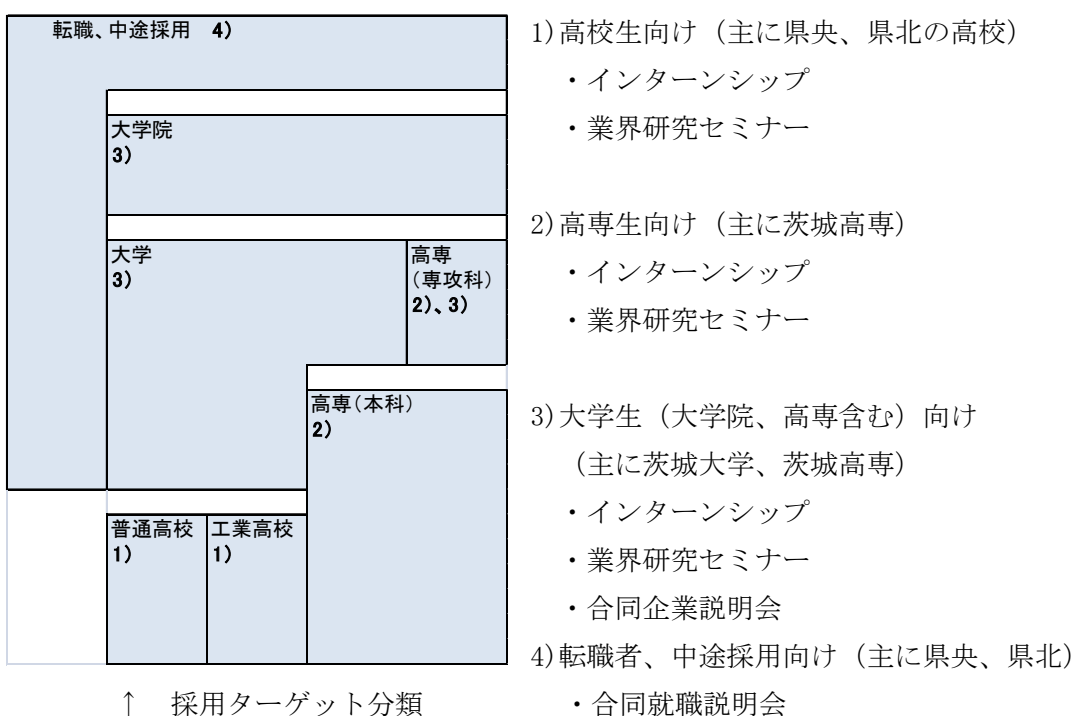
4.1 構築方針

2. 及び3. の調査・検討を踏まえ、平成 29 年度以降に実施するインターンシップの実践的かつ効果的なプログラムを構築する。プログラムは調査結果をもとに実施対象毎に実施時期や実施内容を検討し、適切なものとする。

4.2 平成 29 年度に実施すべきインターンシップ等プログラム

①採用ターゲット対策

・大学・高専・高校等、採用したい学生向けに必要なプログラムをまず検討。その際、どこから採用したいのか（学校、場所等）を具体的に想定しておく。



②生徒の意思決定に影響を与える高校、保護者に対する取組

・生徒の就職活動、就職先決定に影響を与えている高校、保護者に向けた取り組みも同時に考える。

1) 高校

- ・教員向け職場見学会、交流会（主に進路指導室教諭）
- ・インターンシップ時の教員見学参加促進

2) 保護者

- ・親子職場見学会（各社バス巡回&講演会）
- ・インターンシップ成果発表会（一般向け発表会形式に保護者も）

③検討結果を年間スケジュールに反映

- ・これまでの協議会人材確保活動で得た知見を反映。特に学校、学生の就職活動スケジュールに合致するように。この段階では、抜け漏れの無いことを重視。

年間スケジュール（案）（協議会検討用として）

	協議会イベント	参加イベント
H29年5月		○茨城大学工学部インターンシップマッチングフェア
6月	○高校進路指導室交流会（会員企業職場見学、原子力施設見学、懇談会）	○大好きいばらき就職面接会
7月		○大好きいばらきインターンシップマッチングフェア（茨城大学工学部）
8月	○大学対象インターンシップ ○高専対象インターンシップ ○高校対象インターンシップ+成果発表	○東北大学大洗原子力夏の学校懇談会 ○東北大学高専インターンシップ懇談会
9月	○合同就職説明会（中途採用）	
11月		○新規高校卒業予定者面接会
12月	○高校対象インターンシップ+成果発表	○茨城高専ジョブセミナー ○原子力産業セミナー2019 プレイベント（東京） （参加企業から別途費用徴収） ○東北大学放射性廃棄物人材育成講習
H30年2月	○合同就職説明会（中途採用） ○茨城大学東海地区技術企業研究セミナー	
3月	○大学対象インターンシップ ○高専対象インターンシップ ○東京都市大学合同企業説明会 ○勝田工業高校業界研究セミナー ○茨城高専業界研究セミナー ○高校向け業界研究セミナー（親子）	○原子力産業セミナー2019（東京） （参加企業から別途費用徴収） ○大好きいばらき合同企業説明会（東京） ○茨城大学合同企業説明会 ○茨城大学工学部学内企業説明会 ○茨城大学理学部会社説明会

④実施イベントを選定

- ・要する費用、マンパワーの面からも、すべてのイベントを実施することは現実的ではない。「選択と集中」、「必要なものは重複してでも」の両面から検討して選定する。

⑤実施内容を考える

- ・学校及び学生のニーズに応えられるよう実施内容を検討。

1) 高校生向け

○インターンシップ（協議会イベント）

時期：夏休み、冬休み（ただし平成28年度のように12月としてもよい）

対象：普通会员高校2年生、1年生

内容：職場見学をメインとした1日間

- ・東海村産業・情報プラザで集合、オリエンテーション
- ・職場見学（各社を巡るバスツアー）
- ・交流会

保護者向け：インターンシップ体験の成果発表会を実施し、そこに保護者の参加も案内。子の学習成果確認を通じて、保護者の業界、会員企業への認知と理解を深めてもらう。希望があればバスツアーにも参加いただく。

○業界研究セミナー

時期：3月。

【理由】進級を目前に控えた2年生へのキャリア教育の好機。

対象：普通会员高校2年生

内容：求人票受付前の活動のため具体的な企業説明はしないが、原子力の現場を地域の企業の技術が支えていることを、キャリア教育の視点から協議会が紹介する。実施時間は、授業1時限分もしくは2時限分にて。保護者の参加がセットにできるとよい。

2) 高専生向け

○インターンシップ（協議会イベント）

時期：夏休み、冬休み

対象：主に茨城高専生（主に本科4年生及び専攻科1年）

内容：職場見学をメインとした1日間。高専生のみを対象とすることで高専生の参加を促す。

- ・東海村産業・情報プラザで集合、オリエンテーション
- ・職場見学（各社を巡るバスツアー）
- ・交流会

○業界研究セミナー（茨城高専ジョブセミナー2017への参加）

時期：12月（平成28年度実績）。

対象：茨城高専学生（平成28年度は本科3年生が対象）

内容：茨城高専が開催するジョブセミナーに参加し、高専生の認知度を高め、将来のマッチングに向けて種蒔きを行う。

備考：平成 28 年度段階では、特定の業界単独での実施はできない方針であると伺っているが、折に触れて実施提案を重ねていきたい。

3) 大学生向け

○インターンシップ（協議会イベント）

時期：夏休み、冬休み

対象：理系大学生（茨城大学、東京都市大学ほか近県理系大学）

内容：職場見学をメインとした 2 日間

【1 日目】

- ・東海村産業・情報プラザで集合、オリエンテーション
- ・会員企業各社プレゼンテーション
- ・職場見学（各社を巡るバスツアー）
- ・懇親会（経営者層が参加。学生に直接将来ビジョンを語る）

【2 日目】

- ・職場見学（各社を巡るバスツアー）
- ・質疑応答
- ・まとめ

○インターンシップマッチングフェア

時期：5 月

対象：茨城大学工学部大学生（大学院生含む）

主催：茨城大学工学部

内容：茨城大学工学部の学生と企業のインターンシップをマッチングするイベントに参加。会員企業独自のインターンシップ、及び協議会が夏休みに実施する大学生向けのインターンシップを周知案内する。

○業界研究セミナー（茨城大学ひたちなか・東海地区技術企業研究セミナー）

時期：2 月（平成 28 年度実績）。

対象：茨城大学（大学院生含む）

内容：就職活動に向けた企業研究が活発になる時期に、茨城大学の理系学生を対象に原子力人材育成・確保協議会が業界研究セミナーを実施する。

○茨城大学合同企業説明会（茨城大学が主催するものに参加）

時期：3 月（平成 28 年度実績）。

対象：全学学生対象、工学部対象、理学部対象の 3 回

内容：茨城大学は、3月に大学全体、工学部、理学部でそれぞれ合同企業説明会を実施している（平成28年度実績）。これに協議会として、あるいは会員企業単独で参加する。

- 大好きいばらき合同企業説明会（茨城県のU/Iターンイベントに参加）
 - 時期：3月（平成28年度実績）。
 - 対象：茨城県にU/Iターンを検討している大学生（文系含む）
 - 場所：東京
 - 主催：茨城県
 - 内容：茨城県へのU/Iターンを検討中の大学生向けに茨城県内企業による合同企業説明会。進学で地元を一時離れたものの茨城での就業を希望する学生とのマッチングの機会であり、集う理系学生も多いことからこれに参加する。

- 大好きいばらき合同企業面接会（茨城県のU/Iターンイベントに参加）
 - 時期：6月（平成28年度実績）。
 - 対象：茨城県にU/Iターンを検討している大学生（文系含む）
 - 場所：水戸、つくば（平成28年度前期実績）
 - 主催：茨城県
 - 内容：茨城県へのU/Iターンを希望する大学生向けに茨城県内企業による合同企業面接会。進学で地元を一時離れたものの茨城での就業を希望する学生獲得の機会であり、理系学生とのマッチングを期待してこれに参加する。

- 原子力産業セミナー2019
 - 時期：プレイベント：12月。本セミナー：3月（平成28年度実績）。
 - 対象：大学生（大学院生含む）
 - 場所：東京
 - 主催：一般社団法人日本原子力産業協会／関西原子力懇談会
 - 内容：原子力の企業・機関等が一堂に集って、業界全体で業界研究、企業説明を行う機会であり、原子力業界に関心を寄せる学生とコンタクトできるチャンス。原子力を専門に学ぶ学生の参加も多い。出展に費用が高むことが難点ではあるが、それでも参加を希望する企業で費用分担して協議会として参加する。

4) 転職者、中途採用向け

- 合同就職説明会（協議会イベント）

時期：9月、2月

【理由】一般的な労働契約期間の終了を控える時期であり、転職活動が活発になるタイミングに実施

対象：即戦力人材（会員企業が求める有資格者を中心に）

主催：原子力人材育成・確保協議会、東海村商工会（未定）

場所：水戸市（来場者獲得を優先する場合）

東海村（地元開催を重視する場合）

内容：協議会会員企業だけでなく、東海村商工会の企業も加わった合同企業説明会。有能な転職者、中途入社希望者の獲得を狙う。単独の業界での実施するよりも、多様な参加企業による誘客の相乗効果を狙いたい。

⑥開催の周知開始時期を明らかに

- ・周知時期を誤ると参加者の獲得が困難となる。時宜を得た周知案内ができるよう計画する。

⑦人材育成との相乗効果を意識する

- ・人材確保は人材育成の場でもある。両者の相乗効果に着目し、会員企業の積極的な参画を促進。

⑧「協議会」を利用し、独自の取り組みもそれぞれに。

- ・「協議会」だからこそできる機会づくりを利用するとともに、独自の取り組みもそれぞれに実施し、よりよい人材確保を確実にする。

4.5 その他

1)人材確保対策として今後の検討すべきもの

①奨学金を利用した人材育成確保

奨学金返済不安に悩む就活生、優秀だが経済的な理由で進学を断念せざるを得ない生徒、あるいは学業継続を断念せざるを得ない学生らを、企業が支援して人材を育成・確保する。

②東北地方の工業高校生の獲得

ヒアリングの結果、東北地方の工業高校では学力で輪切りされた結果、仕方なく工業高校に行くだけ出なく、優秀な学業成績者が入学することも多く、入学後の学業への取り組みも熱心で難関資格を取得する優秀な生徒が比較的多いことがわかっている。青森、福島で事業展開する会員企業も多いことから、協議会として取り組んでみることを提案したい。

③工業高校の生徒獲得支援

会員企業が人材確保に悩むのと同様、工業高校も入学者確保に悩み、定員割れを起こしているケースも少なくない。工業高校主催のイベント（学校説明会、文化祭など）を協議会で支援することで、工業高校との連携強化を図るものである。人材確保の課題は共通であり、課題の共有は互いの連帯感を強化する効果も期待できる。

④生徒のキャリア教育支援

高専、工業高校における入学後の学校でのキャリア教育支援として、学科での学びがどう仕事に活かされているかを若手OBが語る「ようこそ先輩」的な支援ができると、学校との関係構築・強化となる。

⑤女性エンジニアの活用

原子力の仕事は男性の仕事という印象が、企業側にも学生側にも根強い。しかし、工業高校や高専で学ぶ女性も多く、優秀な技術者が続々と輩出されている。技術者不足に悩む一方で、これを十分に活用できずにいるのも現実である。女性エンジニアが活躍できる（している）仕事の存在を発信して、就職活動先としての認知度を上げていきたい。

⑥文系学生の活用

即戦力としては工業高校や高専、理系大学生が理想的ではあるが、その確保が困難である現実を踏まえ、理数系を不得手としない文系学生を入社後に育成して戦力化するアプローチも必要である。

⑦RI 資格取得支援

企業社員だけでなく地域の高校生も含めてRI 資格取得講座を開催して実績を挙げている自治体がある（むつ市）。難関資格を在学中に取得することで、よりよい条件での就業先選択が実現できる。資格取得を通じて、原子力関連業務への関心が深まって就業先として有力なものになる効果も期待される。

事業委託：株式会社 ペスコ